

大 政 官 文 庫			
5	1	和	
	1681	書	
2	2	函	門
冊	架	號	

內 閣 文 庫			
函	1	和	
	1681	書	
架	冊	號	類

內 閣 文 庫	
番 號	和 11681
冊 數	2 ( 2 )
函 號	202 12





わさりのりくはな御事 みるかつとらふ事

有仲<sup>あな</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>お<sup>を</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>頼<sup>たの</sup>實<sup>じ</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>事<sup>こと</sup>

小野<sup>おの</sup>小町<sup>こまち</sup>事<sup>こと</sup> こと<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>

*[Faint, mostly illegible handwritten text in the background of the right page]*

於政<sup>おの</sup>并<sup>な</sup>道<sup>みち</sup>よ<sup>よ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>

後<sup>のち</sup>惠<sup>めぐみ</sup>を<sup>を</sup>於<sup>を</sup>政<sup>おの</sup>に<sup>に</sup>お<sup>を</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>他<sup>た</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>

て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>を</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>事<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

ま<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>に<sup>に</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>

こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>





わらうす世の中れきしひあれはうてき  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに  
わらうす世の中れきしひあれはうてき  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに

隠作こもりと書

あがこころを判じらうと作をよめ  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに

あがこころを判じらうと作をよめ

まらうす世の中れきしひあれはうてき  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに

道因かえ并志深こころと書

あがこころを判じらうと作をよめ  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに  
まらうす世の中れきしひあれはうてき  
ついでにやうにうれき清捕物下相  
ついでに清庵たるやうして偏燃らう  
清庵と書きしきいあらうすどのついでに

あがこころを判じらうと作をよめ



はらばいふ十そのあよこをむねのふひは  
くあがぬれとあんのんかろくちあつとあつとあ  
後右大臣とし討人くは百首とつた  
隆信作とよ入くちあつとあつとあつとあ  
くそ物さうぐーりをれふとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
乃いさうとあつとあつとあつとあつとあ  
吾親の百首とみうさたてとあつとあつとあ  
ゆまたんしあつとあつとあつとあつとあ  
床並たたあつとあつとあつとあつとあ  
さつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

はらばいふ十そのあよこをむねのふひは  
くあがぬれとあんのんかろくちあつとあつとあ  
後右大臣とし討人くは百首とつた  
隆信作とよ入くちあつとあつとあつとあ  
くそ物さうぐーりをれふとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
乃いさうとあつとあつとあつとあつとあ  
吾親の百首とみうさたてとあつとあつとあ  
ゆまたんしあつとあつとあつとあつとあ  
床並たたあつとあつとあつとあつとあ  
さつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

大補小侍後一雙事

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあ







月清集一  
のりよきこと  
ころのふしをも

雲とてふあまのしづめゆらりあり  
あつらふらんをむさふらんを  
しらんあつらふらんをむさふらんを  
卯花月夜くらりあひや  
あつらふらんをむさふらんを

よ井つる月くらりあつらふらん  
くらりあつらふらんをむさふらん  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを

續後拾遺

和歌  
のりよきこと  
ころのふしをも

あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを

新古今春下  
在度

のりよきこと  
ころのふしをも

あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを  
あつらふらんをむさふらんを



てふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
とていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
わく福とていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
ふくみのあはれあはれとていふもいひてむしむしとて  
つれあはれあはれとていふもいひてむしむしとて  
弁合たていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
ててててててててててててててててててててて  
二首の年とていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
又きききききききききききききききききききききき  
つれあはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて

あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
勝芳はたゆまひとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
世とていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
われとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
いふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
或はとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて  
あはれあはれとていふもいひてむしむしとてあはれあはれとて





ゆるりゆるりわすれぬきんむしむし  
しう物あけづうせう  
あつちうちうちわりのうし  
りうりうりわりの人きんむし

近代古神

わう人回るびじうのんが  
まじり申しうんはあの新と  
とつ世の平しどととら  
や<sup>つ</sup>摩宗<sup>まそう</sup>わしつよ  
わさきん又このうち  
神とい<sup>く</sup>倍よりし<sup>く</sup>ん

拾遺愚草負外  
云自文治建久  
以来極新儀  
非拙造唐哥  
為天下貴賤  
被惡已歎弃  
置及正治建仁  
蒙天満天神  
之冥助應聖  
皇朝和愛  
僅絶家跡

きんむしのうらひとて  
あつちうちうちわりのうし  
りうりうりわりの人きんむし  
ゆるりゆるりわすれぬきんむし  
しう物あけづうせう  
あつちうちうちわりのうし  
りうりうりわりの人きんむし



まるくしりひかりおのひるさかんか  
 こころのまゆみあづをけりしにさうまなりよはれど万葉  
 のこころみとまぞはるは福んこころなれど  
 うづらうらりまくとあかぐらりすまごころ  
 さうらりきをうらとみくしり中なつかたごの  
 ことまた實まふしとかりて其れ海まきり  
 まるくしり後撰まるくしりまのたへん  
 けくされてのらりつくとまのりなれど  
 らしとまごころさうらりすまごころとせり拾  
 巻のこころりそめの新さいとのりしめりくた  
 つまごころらりまのりわらりどつとすまが

たりとまごころしりひそのら後撰のまごころ  
 まごころらりまごころのりしめりくた  
 その時のまごころりまごころらりま  
 にも後撰ままごころらりまごころらりま  
 金葉まのまごころらりまごころらりま  
 かりまのりまごころらりまごころらりま  
 風まごころらりまごころらりまごころらりま  
 むらのまごころらりまごころらりまごころらりま  
 かりつとまごころらりまごころらりまごころらりま





この集よりつぞよりたしむるのまじりて  
みつらゝく又あつたやうせありのまじりて  
そのまじりてのまじりてのまじりて  
の集とて出づるまじりてのまじりて  
ありひとまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて  
まじりてのまじりてのまじりてのまじりて

しりてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて  
ありてのまじりてのまじりてのまじりて





い詮<sup>レ</sup>てととらんわつりまの餘情とごり  
みわつりきたるく——あまのつりあまく  
し集<sup>も</sup>も集<sup>え</sup>らまらわれはむいれ徳<sup>を</sup>  
しあつりしむらふもたはれはのたまふ  
わつりしむらふもたはれはのたまふ  
つらまふはあつりしむらふもたはれ  
たつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ

あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ  
あつりしむらふもたはれはのたまふ





月やわなぬまやじうれなるなすぬ

我が日らうりうりかありて

えんを餘情うらうりうらむきりこころ

しうひのくゆま又もさう風情のみかた

とどろくけきまわれじよのあはれまじ

わづらひれぬの徳とくさるまよあめ

本工の弁

うらみあぐりぬ入ぬるもさ

わなふたみうらねのクムれ

こころのうらみんちんちん

詞とくまわらむらむらむらむら

おらぬ時  
おらぬ時  
おらぬ時  
おらぬ時

うらみあぐりぬ入ぬるもさ

月あうらうりの人よあられ

こころのうらみ

えんを餘情うらうりうらむきりこころ

しうひのくゆま又もさう風情のみかた

とどろくけきまわれじよのあはれまじ

わづらひれぬの徳とくさるまよあめ

本工の弁

うらみあぐりぬ入ぬるもさ

わなふたみうらねのクムれ

こころのうらみんちんちん

詞とくまわらむらむらむらむら

此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...

明月記云貞元元年六月十日天晴  
 少時雷鳴極烈此  
 三十一日昇極殊甚  
 雷鳴殊極大即  
 晴今日買筆之  
 昇天日死未代  
 猶不忘也  
 後深心院開白  
 記云應安四年

此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...  
 此の世は...  
 其の世は...

六月廿六日丁未  
晴申刻雷鳴延長  
以未今日必雷鳴  
由古考相傳云  
見因屋殿御記

さうて夫とすべしとむとみさののれを  
とめぬ野べりあまにまねたつたて花の  
とわらひんくさくさのつらきうららけ  
やうきうららけやうきうららけ  
ゆめりやうきうららけ  
風情とわらひんくさくさのつらき  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ

新勅撰意四歌云云

風雅春中

俊惠

集

俊惠

小野集

うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ

金葉意上  
俊頼  
俊頼  
俊頼

うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ  
うららけやうきうららけ

新古今  
御存意の心  
俊成朝臣

あまのこゝろをいかにしむるは

しよのあまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは

あまのこゝろをいかにしむるは





とみん侍一

假名書事

古人とあひたるのうくもさなる席に古今のふ  
 の席と年とす日たひかたこのととこしらへ  
 あくぬれあはれとつて伴物語あつひよ後接  
 の舞のいとまひまのぬれ物終は源氏一すまひ  
 くらめいしとれぬわらへおのこくくくも  
 づうきとくおまきくもまのこしとくわたり  
 ともありこのとくもわらへいづらふのわらへ  
 くらくらしとくもたかよまおのこくもわらへ  
 ともありこのとくもわらへいづらふのわらへ  
 くらくらしとくもたかよまおのこくもわらへ

△  
 新  
 喜  
 撰

こみぎととみん侍とくわらへ万葉一の新  
 撰とくもわらへ今席一の喜撰と  
 ともありこのとくもわらへいづらふのわらへ  
 くらくらしとくもたかよまおのこくもわらへ  
 ともありこのとくもわらへいづらふのわらへ  
 くらくらしとくもたかよまおのこくもわらへ

神ありあつたまにうらやうなるもどあつひも  
ゆりあつたまにうらやうなるもどあつひも  
やうりうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも

もろくちの  
総浪名

あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも

あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも  
あつたまにうらやうなるもどあつひも





△ 頼重の御代  
一三三〇年  
一三三一年

ふゆめりたうへにさそこののちうらなほらるるにみま  
ひくしんせしとかりしにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
のちうらなほらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
二条<sup>の</sup>大<sup>大</sup>路<sup>路</sup>申<sup>申</sup>せられたるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
まうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

頼重がすまじい

たあに耐らるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
わがしよあまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

小野小町

あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに  
あまうらるるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるにむね十<sup>十</sup>二命<sup>命</sup>入<sup>入</sup>るるに

さうくしるはまのさかき  
 のあきんひらふりては  
 らぎのらぎのさかき  
 のあきんひらふりては  
 らぎのらぎのさかき  
 のあきんひらふりては  
 らぎのらぎのさかき  
 のあきんひらふりては

ハ

けしき  
 けしき  
 けしき  
 けしき

秋をいふこと

さうくしるはまのさかき  
 のあきんひらふりては  
 らぎのらぎのさかき  
 のあきんひらふりては  
 らぎのらぎのさかき  
 のあきんひらふりては

人しつらへくしつらへくお野お町みくらまへ  
ふのあひしつらへくしつらへくしつらへく  
みわらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
まのあひしつらへくしつらへくしつらへく  
下のふとけきしつらへく

しつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
しつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
しつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
お野お町みくらまへ  
お野お町みくらまへ  
お野お町みくらまへ  
お野お町みくらまへ  
お野お町みくらまへ

おと祿のま

あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく

春中 高京伊衛朝臣  
おと祿のま  
おと祿のま

あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく  
あつらへくしつらへくしつらへくしつらへく

まことひのくらのひのまごころわりの賞<sup>しょう</sup>とらんこと  
どわりちのわれは古集の方としてみかぞし  
あしとわつてぬくびなれは古集よりわ  
ひらよもわつて何の風のしななりがゆへなる  
あつわきには集の中へ海くの時とていつ  
む一編ありとぞうの中へいつらの世の風り  
あつらとんとんひてがうてがうていつの  
折とらひひらひのまごころとぬとていつあり  
かの後撰のまごころとぬとていつあり  
とわつとまごころとぬとていつあり  
まごころとぬとていつあり



まごころとぬとていつあり  
あつらとんとんひてがうてがうていつの  
折とらひひらひのまごころとぬとていつあり  
かの後撰のまごころとぬとていつあり  
とわつとまごころとぬとていつあり  
まごころとぬとていつあり

鴨長明抄

元亨三年五月十六日於之我殿

姪屋仁彦書

